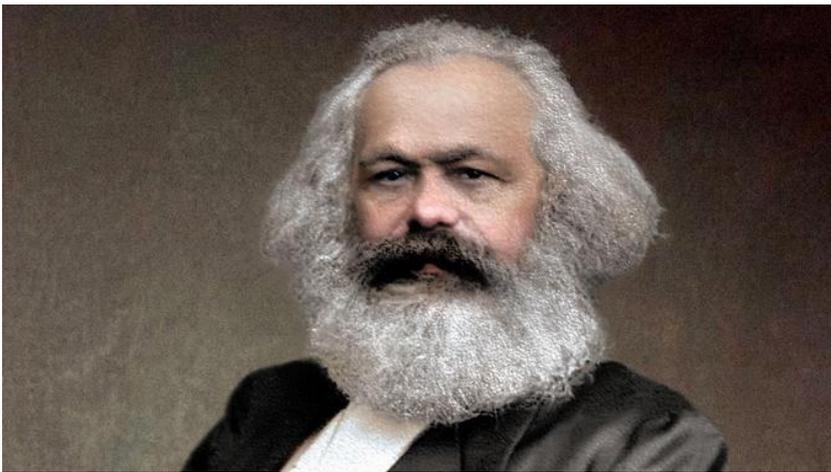


# マルクスは恐るべき差別主義者だった：この引用集が証明する

Chris Talgo: “Stopping Socialism” (Infowars)

June 22, 2020



残念なことに今日の世界では、「差別主義者」という言葉は、「軽率で慎みをもたない」人間を非難する言葉になっている。これは、我々の間に本物のレイシストがいないという意味ではない。そうでなく、差別思想をもつ人を非難する水準が、我々の現代の風土では、嘆かわしくぼけてしまっているということである。

どういうわけが、急進的な左翼たちは、ありとあらゆる人間の彫像を引き倒し、暴徒たちが差別思想だと考える、奴隷制の終わりを記念する像まで引き倒している。それなのに、差別思想家であることが歴然としているカール・マルクスだけは、なぜか「目覚めた」暴徒たちの怒りを免れている。

それを証明する引用文を示す前に、覚えておくべきことは、マルクスにとって人種差別は、彼のイデオロギーである社会主義の見解と、別のものでもなく、矛盾するものでもなかったということである。マルクスは、下の多くの引用文が例証するように、「進歩」が起こるためには、民族的な集団や国家のあるものは、より強力な集団によって呑み込まなければならないと信じていた。

【Greatchain による注】これを訳したわけは、アンドレ・ヴルチェクの文章を引用して言ったように、差別され虐げられた者たちは、歴史を正しく認識せず、ビジョンも哲学もなしに、憎しみだけで行動しても、それは敗北するだけだと言うためである。

たとえば Maxine Waters という有力な民主党黒人議員は、「トランプ支持者は、黒人が立ち上がって権力につくことを、阻止できると考えている」と高言している。そんなトランプ側との権力争いが問題だろうか？ そもそもトランプは、少なくとも人より黒人の側に付いている。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/200526.pdf>



誰よりも相手にすべき恐ろしい敵は、誰もが味方だと思っているマルクスのような共産主義者である。そしてその現代版は、資金をくれるジョージ・ソロスのような、用意周到な策士たちであろう。遙かにより巨大な、しかし追い込まれ、自暴自棄になっているものたちの存在に、気づかなければならない。

もう一つ重要なのは、「マルクスは…〈進歩〉が起こるためには、民族的な集団や国家のあるものは、より強力な集団によって呑み込まれなければならないと信じていた」という文章で、これは「ダーウィン進化論」そのものである。〈進歩〉とは〈進化〉のことで、マルクスの時代、まだこの語がなかった。この「ダーウィン」もいま自信喪失しているが、必死に自衛している。

さらにマルクスについて重要なことは、彼とエンゲルスが書いた『共産党宣言』(1848)は、時代は70年ほど隔てているが、秘密結社「イルミナティ」の創始者アダム・ワイスハウプトが、ロスチャイルドに依頼されて書いたと言われる文書と、ほぼ同じだということである。Cf. 「〈悪の帝国〉共産主義はどこから生まれ、何だったのか？」

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/161014.pdf>

もちろんマルクスは、究極的には国家の必要はないと考えた。なぜなら世界の労働者たちは、国家の必要などなく、団結することができるからである。しかしそれが起こる前に、

まず、世界の遅れた人間たちは、消えてもらうか、共産主義のために、世界的な革命に参加してもらう必要があるだろう。これは避けられないことで、科学的に証明されている、とマルクスは考えた。

下にあげるのは、マルクスの人種差別思想を例証するいくつかの引用である。もちろんこれは言うまでもないことだが、我々StoppingSocialism.com は、このような引用文が、差支えのあるものであることを承知している。我々がこれを読者にお見せするのは、マルクスや彼の初期の多くの信者たちが、いかに非常識な存在であったかを示すためである。

### カール・マルクス、社会主義的人種差別者（引用）

「ユダヤ人の世界的な宗教とは何か？ カネ儲け主義である。彼の世界的な神とは誰か？ カネである。…カネは、イスラエルの妬む神であり、その前では、他のどんな神も存在できない。カネは、人間のすべての神を墮落させる。そしてその神々を、日用品に変えてしまう。…為替手形が本当のユダヤ人の神である。彼の神は、幻想の為替手形にすぎない。…ユダヤ人の奇怪な国籍とは、商人つまり、カネの人一般の国籍のことである。」——カール・マルクス『ユダヤ人問題について、1844』

「ユダヤ人ニグガー (nigger) のラサールは、ありがたいことに今週末にはいなくなるが、うれしいことに投機の判断を誤って、またしても 5,000 ターレルを失ったよ。こ奴は、友達にそれを貸すよりも、カネを溝に捨てる方がいいらしい——利子と資本が保証されていてもね。…（以下、nigger や negroid という語が数回、現れる。）——カール・マルクス「マルクスよりマンチェスターのフリードリヒ・エンゲルスへの手紙、1862」

Tremaux 「が、通常のニグロ人種は、もっと高級だった人種の墮落した形態であることを証明した——これはダーウィンによる非常に意味深い進歩だ。」——カール・マルクス「フリードリヒ・エンゲルスへの手紙、1866年8月7日」

「奴隷制度がなければ、最も進歩（進化）した国である北米は、家父長国家に変化したであろう。世界の地図から北米を除き去ってみよ。そうすれば残るのは無政府主義だけだ。——現代の商業と文明の完全な崩壊だ。奴隷制度を廃止して見よ。そうすれば諸国家の地図からアメリカがなくなるだろう。」——カール・マルクス『哲学の貧困、1848』

「インド社会は全く歴史を持たない。少なくとも知られた歴史を持たない。我々がその歴史と呼ぶべきものは、連続した侵略者たちの歴史にすぎず、その者たちが、あの抵抗しない、常に変わらない社会の受動的な基礎の上に、彼らの帝国を築いたのだ。」——カール・マルクス「ニューヨーク・デイリートリビューン、1853年8月8日」

「ロシアとは、モスクワ人たちによって篡奪された名前である。彼らはスラブ人ではない。彼らは、インド-ゲルマン人種には全く属しておらず、侵略者たちだから、もう一度ドニエプル川の彼方に追い払わねばならない。」——カール・マルクス「フリードリッヒ・エンゲルスへの手紙、1865年7月24日」

【Gretchainによる注】これは、引用されたマルクスの言葉の一部にすぎないが、彼の歴史哲学が、いかに戦闘的で侵略的なものであるかがわかる。その根底にあるのがダーウィンの闘争すなわち「生存闘争」である。彼がダーウィンの『種の起源』を読んで、自分の考えていたことにぴったりであることに小躍りし、『資本論』の英語版の署名本を、彼に献呈しようとしたことはよく知られている（ダーウィンは断った）。

奴隷制というものを、我々は廃止すべきもの、そうすることが人類の「進歩」であると思込んでいるが、マルクスの「進歩」は真逆であり、奴隷制を廃止すれば、人間の進歩も文明も停止すると言っている。まさに黒人奴隷の犠牲において、白人文明は可能になる。だからそれは科学的必然として、むしろ「善」であり、歓迎すべきものである。

これが実は、現在でもアメリカとヨーロッパに生きており、（正統でない）ロシアは滅ぼすべきものという前提で「深層国家」は動いている。これに疑問を呈するものがいれば、それは異常であり、反アメリカ的であり、したがってロシアと「癒着」している（と言っている）トランプなどは許せないことになる。それはアメリカの進歩の手段を否定するものだからである。奴隷制とロシアは、進歩発展する正しい白人社会が、自分の土台として、利用すべきものとして存在する。

これは相手が黒人であっても、インド人であっても、「正統な」ものでないユダヤ人であっても同じである。ユダヤ人を全滅させようとしたヒトラーは正しかった。「種の純粋性」は正しかった。口にはしないだけで、日本人に対しても、その根は同じはずである。だから、その教育を受けて育ったオバマは、原爆の投下を悪ではなく、あたかも自然現象のように説明した。そしてマルクスのこの精神——残虐を「科学的」に正当化すべきものとする精神——は、文化的土台として、ビル・ゲイツなどの人口削減論にも、私自身がその対象になりかけた、病院での老人整理理論にも、実は受け継がれている。